

北陸からみるデジタル基盤 ～ 地方の課題 ～

(一社)テレコムサービス協会
北陸支部会長 細野 昭雄
(アイ・オー・データ機器 代表取締役会長)

2024. 4. 16

前提

■価値観

都会 : 合理性、効率、コストパフォーマンス、タイムパフォーマンス重視

地方 : 慣習の優先、変わらない(安定した)毎日

■地方、地域

中部、北陸、北信越、石川(県)、金沢(市)、珠洲(市)



どういう地域で、どういう世代(価値観)を中心に捉えるのか?! によって
見方が変わる

※地域によっては「ウェルビーイング」をキーワードに根本的な部分から考えての
DX化に取り組んでいる

ひと括りで考えるのは危険 → きめ細かな分析の上のマクロ戦略とミクロ戦術

例 マイナンバーを普及&利活用を促進(戦略)
都会におけるマイナンバーカードの利用(戦術)と
観光都市での利用、あるいは過疎地域での利用は異なる

能登半島地震

御礼 各地、各方面からの救済、支援に感謝！！

■道路、電気、上下水道、通信がいかに重要か！

- > 道路 : 能登に向かう主要な3つの道路が不能
- > 配管 : 田舎になればなるほど埋設配管経路が不明
 - ex 今なお、水洗ではないトイレが使われている
- > 電柱(電気、通信ケーブル): ほぼ使えない、立直し(再配線)が必要
- > キャリアの通信基地もDown → スマホによる安否の確認ができない
- > 志賀原発が無事であったことは救い！
 - ただし、停電、通信不能により、モニタリングポストのデータが残っていない時間帯が発生
- > クラウド利用が進みデータ損失が抑えられた
 - ただし、安価な海外サーバに保存しているという海外への依存度が高まっている



道路

道路トップ > ご意見・ご要望 > English

ホーム > 政策・仕事 > 道路 > 令和6年能登半島地震 道路復旧見える化マップ

令和6年能登半島地震 道路復旧見える化マップ



ポータル化されて、工事状況や避難所、水などの物資状況などの情報が、見える化されていると良い

参考 国土交通省のWebサイト

能登半島地震 道路復旧見える化マップより

安否確認

■安否、病気、怪我等の確認

多くの企業が「安否確認」のメールやSNSが使われている。

そこに所属しない人の安否は？！

町会、マンション・アパート、観光者(家族、旅館)、etc

より効率的な救援活動のために



自衛隊、救護・病院、自治体等において、それぞれが持つ情報を共有化し一元的に管理できる仕組みを政府が進めるDX化の中などで考慮されると良い。

通信

■非常時における通信は？！

能登半島地震においては、「Starlink(KDDIが50台提供)」が活躍
※DMAT(災害医療派遣チーム)と一緒に医療現場で利用

対策室(役場)や避難所では、すみやかに運用できる環境が必要。
また、平時から、使うなどして慣れておくことが重要。

[参考]

- ①能登(孤立地域)において、災害に備えて「衛星携帯電話」を配備するよう努める、と定義されていたがコストの問題があって配備されていなかった。
- ②北陸総合通信局には「臨時災害放送局」が保管されているが運用の依頼が無かった。(それどころではない、というほどの非常事態)
→ 代理で運用できるルールが必要。地域イベントに使ってみるなど平時に使って慣れておくが良い。



富山県総合防災訓練において当支部は北陸総合通信局に協力して音声配信との併用をデモ

平時からの備え

■特に考えるべき分野

都会、地方都市、過疎地域における格差解消が必要

- ・医療 : 生命、健康の維持
- ・公共 : 国民(県民、市民)としての権利
- ・教育 : 将来を担う生徒、学生への投資
- ・それらにおけるデータをしっかりと守る仕組み

→ 費用対効果でははかれない分野！

物理的な壁を、デジタル技術の利活用で解消できる部分もあり得る。さらなる利活用を期待。

高速性が求められる場合もあるが、普段は高速でなくても良い場合もある。

→ 二者択一的なサービス契約は割高

低速(安価な)契約において、スポット的に高速を使えるような契約があると良い。



地域でできることなど

■デジタル弱者の底上げ

- ・デジタル活用推進事業（総務省の施策）
毎年継続していることによって、マイナンバーカード、スマートホンの利活用が進んだ

ただし、内容が画一的なため高齢者の個々人の事情に応じた対応ではない

- ・NPO、ICT業界OBの人々の活用
自治体からの委託で安価に学校のICTサポート

- ・高年齢者向けスマホの安心安全勉強会
富山県警、石川県警、福井県警との共同
開催



↑ ICT業界OBが
集まったNPOの実
施しているパソコ
ン教室の様相



石川県での開催模様 →
上：内灘会場（メイン）
下：浅野川会場（サブ）

イノベーションにこだわらない チャレンジャー・人材育成

■ビジネスコンテスト

往々にして、イノベーション、新規性を問うコンテストになりがち

→ 若者のチャレンジマインドを育て、**足腰の強い会社人**にする狙いも含めての開催

また、コンテストのあとのフォローアップの強化(我々にとっても課題)



テレコムサービス協会北陸支部主催
ビジネスコンテスト集合写真

■過度な保護の問題(デジタル人材の教育)

若い者(生徒、学生)には「旅」をさせる環境が必要

→ 積極的に新しいICTを使わせるなどして、グローバルな大海に放り出されても大丈夫なセンスを養う

まとめ

1. 災害時においても特定拠点においては**絶対的に確保される通信**の必要性
また、**平時から使うことで操作に慣れておくことが大切**
2. 災害時において**情報を一元的管理**のできるプラットフォーム(システム)の必要性
3. デジタルデバイドの解消やチャレンジマインドを育むための**きめ細かいプラットフォーム(コミュニティ活動の場などの仕組み)とその運営の支援**
4. クラウドの進む中、国民の生命を守るというくらいの意識での**データを守る仕組み**(海外サーバの利用など海外への依存度を下げる)

テレコムサービス協会

変革するネットワーク社会を見据えて

(一社)テレコムサービス協会

北陸支部会長 細野 昭雄

(アイ・オー・データ機器 代表取締役会長)